

令和3年7月2日

鈴木委員

私からは、まず最初に御担当の方、神奈川県企業庁のホームページを開いていますか。時間構わないから開いて。大丈夫かな。

最初に企業庁の方に申し上げますが、私もこの世界に入って19年になるんだけど、今回、初めて、建設・企業常任委員会へお邪魔した。

それで、今回この水道のことを調べたら、やたら難しい。書いてある言葉は難解だし。ホームページのどこを調べても情報が出てこない。だから、こんな言い方いけないけれども、私、全体をつかんだ質問なんてまだできないと思う。だから、遠慮なく反論あったら言ってください。今日、私の思った、思いの丈を一気にぶつけていくから。

まず最初は、このホームページ。何なのかね、これ。これが、企業庁がつくるホームページか。要するに、どこから資料を探せばいいのか。やっと分かったことは、ここのところの下の、企業庁についてというところをクリックすると出てくる。こんなことは、県民がこれ見たら分からないだろう。まず最初、腹立たしかったわけだよ。それこそ何か、ホームページから質問させないようにしているんじゃないかって。まず最初、これから聞こうよ。どういうつくりしているの、これ。どこ見たってデータが出てこない。ここからやっと見つけたんだよ。それでも小難しい、受水、取水なんて、県民が日常の言葉で使わない。それもどこにも書いていない。どういうことなのかも書いていない。少し勉強させていただきました。

まずは、このつくりについて教えて。検討したことがあるのか。誰が責任者なのか。

企業局企画調整担当課長

今、ホームページのつくりについて御質問がございました。

このつくりについては、確かに、委員おっしゃるように、企業庁のトップページから直接にたどり着くことができないという意味では、特に初めて使う方に御不便をおかけすることがあるのではないかと認識しております。

鈴木委員

まともに答弁しているのか。私が聞いているのは、何でこんなつくりをしているんだと聞いているんだよ。申し訳ないけれども、時間がないからとんとんとやろうよ。

企業局企画調整担当課長

このホームページをつくるに当たって、企業庁のトップページから、水道、ダム、電気、あと企業庁についてという、4つの大きなページに振り分けるようなつくりになっておりまして、そこからさらにそれぞれの事業に入っていくというつくりにしております。

鈴木委員

私はそんなこと聞いていない。あなたが今言ったけれども、県営水道のこととやったら、何出てくる。どういう形で道志村から水が来るかなんてどこも

書いていない。だらだらと文字ばかり書いてあって。図なんか1つもない。懇話会か何かの資料を見たところに書いてあるけれども、何でこういうところに図をきちんと貼り付けて、県民が分かるようにしないんだ。あなた方のそういう体質は、ここから見れば分かりますみたいな、あなたの今のその態度がこういうところに出ているんだよ。説明なんか受けなくたって、あなたの今言ったようなこと見れば分かる。私の聞いているのはそうじゃなくて、これが一県民の人が見たらどうするんだと聞いている。

企業局企画調整担当課長

今のページが見つらいところもあるかと思しますので。

鈴木委員

あるところじゃない、見つらいんだ。

企業局企画調整担当課長

どういうページが見られているのかをきちんと分析しながら改善していきたいというふうに。

鈴木委員

課長さん、そんなの他のホームページ見れば、勉強しなくたって分かる。そんな勉強なんかしてないで、これ、いつまでに作り替えるのか。

企業局企画調整担当課長

まずはトップページから、利用者の方がお探しの情報、利用頻度が高いページにつくりが行くよう早急に。

鈴木委員

いつまでと聞いているの。

企業局企画調整担当課長

すぐにでも作業に着手したいと考えております。

鈴木委員

すぐなんて、よく分からないじゃないか。10日後だってすぐだよ。これ、いつまでにやってくれるの。みんな見ているんだよ。

企業局企画調整担当課長

今年度の前半には改良、改修したいと考えております。

鈴木委員

今年度っていつのこと言っているんだ。この企業庁の方って、100年とか50年とか30年とか10年とかも平気で言うんだよ。世の中変わっているって。あなたが、半年後なんていうようなことを言っていたらば、いつの話しているんだよ、半年後っていうのはさ。今年の前半とかって、いつなの、だから。こんなすぐできるだろうよ。

企業局副局長

委員御指摘のとおり、見直しは、まず、短期的には、この7月中に、まず利用者の多いページに直接飛べるような形で直させていただきたいと思います。

もう1つ、使い勝手のよさについては、やはりちょっと検討期間を置かせていただいて、今年中には変えるようにやっていきたいと考えております。

鈴木委員

7月中にじかに飛べるようにすることは分かった。

だけれどもこんなのさ、毎回言っているけれども、去年の一般質問でもやったけれども、この県のやっているホームページもひっくり返して何をやっているのかね、この中の人たちってさ。県民がこの情報をみんな見ているんだよ。だから、どうか一刻も早くこれやってみてください。

その他に、ちょっと気になっていることが2つあって、それについて質疑をしたいと思います。

1つは、代表質問とか一般質問聞くと、企業庁は毎回黒字について、企業庁長をはじめ、いろいろな方がいろいろな答弁をされていた。確かに黒字はよいことだよ。よいことなんだけれども、私は2つ、心配なことが出てきた。

その1つは、あなた方が出している実施期間が平成26年度から平成30年度の神奈川県水道事業経営計画を見てみるとこう書いてあるんだよ。支出の状況の中に、経営環境がより一層厳しくなる中、支出の削減に取り組むとともに経営の効率化に努めた。その結果が何なのかというと、1つ、受水費の引下げ。要は水道企業団だよ、2016年度からマイナス7.9%の引下げ改定して、計画額に比べて14億円減少した。

2つ目、支払利息の抑制と書いてある。そして、合わせて15億円計上したと書いてある。これ、何を努力したんだよ。よく考えてみたら、要は、広域水道企業団そのもの自体はタイアップしてやっているんだらうから、失礼ですけども、指定管理者のような方々に、金をどんどん下げてくれとお願いして黒字を何とか賄っているということなのではないですか。どういう状況なの、これ、教えてよ。

特に、この資産財政収支の中見ていると、毎年毎年14億円ぐらいの金が受水費の中から出てきているんだよ。あなた方、黒字ということをや気いっぱい言ってるけれども、中そのもの自体を見てみたら、早い話が水道企業団の方々に、これだけ下げろよって言って、黒字に何とかもっていったということなんじゃないのか。どうなんだね、これ。

だって、これあなた方作ったんだろ。あなた方のレポートだ。とんでもないところから持ってきていない。ホームページから出したんだ。

経営課長

企業団は、我々とは別の議会を持っていろいろ議論をされています。そのときの状態でいきますと、それまでやっていた大きな事業の借金の返済が終わって、次の新しい事業をやるかということと一緒に話し合っ、新しいその設備投資をしないという話になったため、結果的に受水費が落ちています。

あと、企業団の人件費や人員の抑制ということも一緒に話し合いながらコストの全体を下げてきました。

鈴木委員

あなた経営課長だろ。そんな論理が通用すると思うか。だって、この中で14億円が下がっていると言っているんだよ。あなたが書いている文章だか知らないけれども。何も相手方から、私たちがこういうふうにやりましたから下げますよなんていうこと基本的にはないだろうよ。だって、企業団は企業団として経営している。職員を持って。その中に14億円もの金を毎年毎年捻出するなんてことは、あなたみたいなそんなふざけた説明でもって経営陣が納得すると思

う、そんなことで。

経営課長

そうではありませんで、企業団から捻出しているのではなくて。

鈴木委員

捻出とは言っていないよ。私の言っているのは、要するに、捻出しているんじゃないくて、受水費はあくまでも水を買っているわけでしょう。買って売ってということでしょう。受水費だから。それは、何も色をつけたり何とかってないでしょうと私は言っている。あなたがいろいろ、ああでもないこうでもないと言ったじゃない。例えば、起債がどうのこうの。それが、何々が終わったということではなくて、14億円というそのお金そのもの自体は受水費としてこのところに出てきているのだから、その裏というようなものが、ああでもないこうでもないというようなこと、ここにはどこにも書いていない。書いてないし、数字は正直ですよ。

だから、企業団だってきちんと営業している団体であるならば、何で14億円のもの金が、そもそもは、2014年から163億円、162億円、その後148億円まで急に下がるなんていうようなことは、よっぽど景気がよくて、ということは、基本的にそうないよね。

経営課長

それでは、水道料金といいますか、企業団の受水費の算定の方法までちょっと遡って説明します。これからの計画期間においてどれだけの事業を行うか、例えば、何か大きな更新をやるから何千億円必要だとなれば、当然、それを賄うための受水費は上がりますし、逆に、何かが終わって、そのときの企業債などを返し終わって、当面、その新しい大きな事業をやらなければその間の企業団の受水費は落ちるわけです。企業団の受水費は少し我々の水道料金とは違いまして、その多くのコストの、その当時は約8割を基本料金としてお支払いして、残りの2割ぐらいを実際の使用水量の高に合わせて払っていますので、その中で受水費と、経営計画の中に入っている受水費といいますのは、おおむねそのときに見込まれた基本水量を中心に書いてあるものとなります。

なので、企業団の実際に行おうとしている事業量に合わせて受水費は算定されていると御理解をいただきたいというところでございます。

鈴木委員

今の課長の答弁、議事録に載るだろうから、私もこれ、企業団に確認しますよ。

そもそもが、14億円もの金だよ。今の理屈は分かった。さっきから私言っているように、そんな中身なんか、水がどういうふうななんて私分らないけれども、普通の会社や神奈川県でも、14億もの金のこんなふうな支出抑制をやって、それが黒字に相当貢献しているとなるならば、要するに、あなた方の経営努力って何なんだ、どういうことなんだということをもっと私にただしておきたかった。

その中で、私がもう1つ心配していたのは、さっきから5事業者の広域化などでも出ていたけれども、神奈川県は、そもそも、水道料金の平均って二千数百円ぐらいですよ。全国だと三千幾らぐらいになっていて、大変に安価だと

いうことで有名ですよ。それで、なおかつ黒字なんだというわけだ。

私が気になったのは、第12回神奈川県営水道懇話会の議事録の中で、こういうようなことを言っている委員がいらっしゃるんだよ。

横浜、川崎、東京と比べて神奈川県のパ路更新率が低い状況となっていると。本来であれば、更新した結果、利益剰余金が出なかった。これ以上の更新をするならばもう少し料金上げるといふ必要があるけれども、これをしていない。先行会派もしていたけれども、要は、この管路の更新が100年先みたいな話がここでもって出てきている。本当に、安全を取るのか利益を取るのかというようなことをこの委員は提言しているわけだ。

私が見ていて心配したことは、さっきから答弁ずっと聞いていると、配水池や中心管については、何年までに終わりますという答弁をさっきから一生懸命されていらっしゃる。ところが、現実に、この神奈川県のパ路事業計画を見ると、16ページに、100年先を見据えて管路の更新に取り組むとこう書いてある。100年ってさ、ここにいる人誰もいないよ。100年も先なんていうようなことを、そもそも事業か何かで平気で書いてくる。それは、あなた方が何の努力もしていないという意味ではないですよ。そうではなくて、100年単位、これは10年単位でも、私もう納得いかない。この中で委員も言っているけれども、水なんて需要はこれからどうなるか分からないと。コーヒーそのもの自体だけ私は頂ければいいので飲料水は結構ですとかということについて、企業庁もここに出ている方、それは企業長かどうか知らないけれども、そういう時代が本当に来るかもしれませんねと言っている。

そうすると、私はすごくここでもって心配したことは、この中でもって、これだけ、要するに、いろいろな黒字が出ています、料金も上げません。けれども、更新はこのような形で100年かかりますとなっていたときに、こういうテーゼというのを、県民に、一度でもアンケートを取ったり伺ったりしたんですか。どっちを取りますかというと言い方失礼かもしれないけれども、民意はどっちに行っているんだということをおあなた方問うたのですか。これ、災害になったら大変なことになるよ、間違いなく。私言っておくけれども。

何か、ぺらぺらと、このところに水道施設の耐震化なんか書いてあるけれども、この末端に行けば行くほど大変な被害になる。その、要するにバロメーターって、どっちに取ろうとしていらっしゃるの。これちょっと聞いてみたいと思う。どうですか。

経営課長

まず、今、考えや思いを聞いたかということと、我々がどのように考えているかという2点についてお答えをさせていただこうと思います。

神奈川県営水道事業では、3年ごとに、給水区域の使用の方々を対象に、お客様意識調査をやらせていただいております。その中で、今、委員から御指摘にあったようなことも、赤裸々にといたしますか、素直にお伺いしております。

結果としては、直近のアンケートの結果では、お客様、または、いわゆる事業所といった方々のうち8割が、今後の災害対策について今以上の水準で進めてほしいといった御意見を頂いているところです。

一方で、神奈川県営水道は、管路が約9,000キロ以上、横浜市と同じぐらいの管路を持っています。一方で、水道の利用者は横浜の人口の3分の2の利用者がいます。面積は、御存じのとおり神奈川県営水道が5位ということで、非常に、その事業の効率性としては必ずしも高くない中で、同じようなサービス水準、サービスを高めていくために、今、鋭意努力しているというところで、なるべく早く管路の更新はしたいと、我々としても努力をしているところです。

鈴木委員

そんな答弁を聞きたいのではなくて、あなた方の100年と言っているのは5年や10年早くなるのかもしれないけれども、じゃあ、ここで逆に百歩譲って、管そのもの自体の交換ができないリスクというようなものを、大正地震とか何とか書いてあったけれども、どのようになるかというシミュレーションをして、それでどんなような、リスクがあり、そして、どのような形でもってこれを克服していくのかというマニュアルなり行動計画なり何なりを、企業庁として持っているの。

計画課長

神奈川県で発生する地震に対しまして、どのように耐震化を進めてくかということであり。

鈴木委員

耐震化じゃないよ。だから、住民の方々に対して、そういうことがあった場合にどういうリスクを取って、どのようにいくのかということを知っていることだよ。耐震化を進めてなんて聞いていないよ。私の知っているのは、あなた方がそういうふうにするならば、百歩譲って、100年というのならば、これから30年以内に必ず来ると言っている南海トラフだとかいろいろな地震があるよね。そのときにあなた方がどのような行動マニュアルを持っているんだと。県民に対しても、また企業庁内に対しても、それを知っているのよ。

経営課長

委員御指摘のとおり、今、我々としては100年をめどにと言っていますが、それについても、利用者の皆様の生命と財産を守っていくために、まずは水源から近いところ、具体的に言いますと浄水場であるとか、浄水場から一番近い配水池、各市町の一番大きな配水池という順で耐震化を進めています。その間に、耐震化の間に合っていない部分については、給水車などでの応急給水といった整備をしっかりと持ちながら、管路の更新に努めていく。

鈴木委員

私はそんなこと知っているんじゃないんだよ。そんなの、この図見れば分かる。給水車が出ている。ところが、これからこんな大きな地震来たら給水車なんか通れないよ。何十万もの人間どうするんだよ、これ、水道について。水道部長、なんか答えられるんじゃない。下向いてないでさ、あなたが責任者でしょ。どういうふうにするのか。私にはっきり聞かせてください。

だから、100年かかるのは、分かった。ところが、震災等々が30年以内に必ず来るんだよ。そのときに、見るも無残な状況になる可能性がある。そのとき企業庁として、マニュアル、そして実質的な対応、そして実践的なその避難等々や、また避難もひっくるめてどのように給水をするのか。末端に対する、県民

に対するマニュアルはお持ちなんですかと聞いているんです。

水道部長

県営水道、災害対策全体ということから申し上げますと、まずは、ハードとして水道施設の耐震化を進めて、まずは被災しないような施設を造るということに第一に取り組んでいる。ただ、全ての震災対策が、直ちに完了するのは、財源的にも体制的にも極めて難しいので、いざ、地震災害が起きた場合の対応については、企業庁として災害対策計画を策定して対応することとしています。

それぞれの地震想定に基づいて、実際に地震被害が発生した場合、災害対策本部を設置し、給水区域内 10 か所ある営業所、それぞれで災害対策本部を設置します。地元の市町とも連携を取りながら、応急給水について市町と一緒に計画を立てて応急給水をするというものです。

鈴木委員

部長、マニュアルあるのかどうかでいいよ。そんな質問していないから。マニュアルあるんだね。

水道部長

あります。

鈴木委員

今の話聞いていて私がすごく心配したことは、結局あなた方がやっているのは水道、要するに、水道の営業所とかそういうものだけれども、末端の、要するに県民の方々に対する給水ということに対していち早く出すべきだ。これだけで何年もかかって、いろいろな話が出ているんだよ、部長。

だって、そもそもが、こんなものは、さっきからも出ているけれども、何年もかかってこういうような災害対策を県でもいろいろやっている中で、何でそういう末端に対するそういうものはないのかというのが私から 1 つ。

2 つ目には、さっき言っていたけれども、その経営等々について、こういうふうな形でもって、逆に 8 割の方々が災害に対してすごく心配していますと。それに対して、アンケートをしたのだったら、県民のところきちんとそれは出してくださいよ。誰も、私も知らないよ。少なくともこのホームページにも載っていない、何もしていない。情報があなた方のところで全部止まっていて、何をしているか分からないからこういうことを一々聞かなければならないわけだよ。

この企業庁の中で、あなた方は何もやっていないとかやっているとかではなくて、私が心配しているのは、そういうリスクって、先々起こることに対して、どうしているんだということを私は代表質問のイントロでやった。グレースワンとって。それをあなた方が一刻もやることが大事なんじゃないのかと思ったのと同時に、水道料金の値上げ等々もひっくるめて、今後あなた方が迎えてくる方向についてどのようにするのかということを一応質問しました。

今日は私もこれでもって、時間がないから締めますけれども、もう一度、今言った経営の観点、ホームページ、そして、この避難対策も書かれた災害対策、この 3 つについて明確に、もう一度また、何らかのときにまたお聞きしたいと思いますので、よろしくお願い申し上げたいと思います。